



竹林 鉄也さん  
JAあしきた理事

芦北町田浦でデコポン、甘夏を栽培されている竹林鉄也さん(55才)を取材しました。竹林さんはJAあしきたの理事、JAの果樹部会長も務めておられます。

### ● 柑橘類栽培の苦勞

芦北農林高校を卒業後、大分県国東半島にあるみかん研究所で一年間勉強を終えた竹林さんは、帰郷後柑橘栽培に励まれています。

現在地元の田浦のみかん山1800a、鹿児島県出水市のみかん畑2700a、合計4500aでデコポン、甘夏を栽培しているが、収穫前のイノシシやトコジロの鳥獣被害対策も大変だとのこと。

中晩柑であるデコポン、甘夏は収穫したあと一週間貯蔵して出荷するが、収穫時に気付かなかった小さなキズが原因で腐れたり、貯蔵を厳しく管理しているても表面が焼けたようになるものが出てきたりする。

出荷した後も商品として消費者の手渡るまで決して安心できないのがこの

の仕事だと語られました。

### ● 自然災害による被害

平成の初めだったが、収穫前の12月上旬に大寒波(マイナース7C)に見舞われデコポン、甘夏の果肉が凍ってしまいジューズ用にしかならなかったこともあったとのこと。平成16年の大型台風(18号)が直撃したときは、果実の多くが落下し、まだ成熟もしていなかったのでジューズへの転用もできなかった。そのうえ、倒木したり、樹が弱ったりして平年の収穫量に回復するまで数年を要したとのことだ。

### ● これからのこと

果樹農家にとっても後継者の減少は深刻であり、JAの理事、果樹部会長として頭を痛めている。

わが家は、幸い長男が高校を卒業後、長崎で2年間研修をすませ跡を継いでおり、今後はデコポンの無加温のハウス栽培を増やしてゆきたい。品質、収穫量とも優れているので経営の安定が期待できると語られました。

### ● 好きな言葉

「ガマンと忍耐」  
果樹栽培でも、部会等の運営でも様々な困難に出会うが、ガマンと忍耐が大事だとしっかりと肝に銘じ精進していきたいと話されました。

# がんばっていきます



出荷者  
長井スミ子さん  
JA熊本市直売所「夢未来」

長井さんは上松尾の出身です。実家はミカン農家でしたが、一般企業へ就職していました。その後青年団交歓会でご主人と知り合い、20歳で御幸木部へ嫁いできました。

### ● トマト一筋です

長井さん宅ではトマトを20a、米を110a栽培しています。米はレンゲ堆肥を使用して、お弁当屋さんからも注文があるほど好評です。トマトは栽培を始めて47年になります。品種は大玉の「桃太郎」と「桃太郎はるか」の2種類を栽培しています。10月に苗を定植して、18段〜20段の棚にします。そして1月から7月中旬まで収穫し出荷。すべてハウス栽培で、品質を良くするため、減農薬、ミネラル栽培をしています。冬場は暖房で加温し、温度を調節しハウスを開け閉めして温度調節したほうが節約になるのですが、その分手間がかかるので暖房だけで調節していますとのこと。「長年の経験を生かして作っているのだから、うちでしか作れないブランド商品と想っています」

す」と語っていました。

### ● 大人気のトマト

以前は京都の生協まで出荷していましたがという長井さん。さらに35年前までは、リヤカーで上通りにまでトマトを売りに行っていました。「10時から売り始めて午後2時には完売しました。美味しいものを作れば必ず売れるんだと思いました」とのこと。直売所は、始めは規格外品を少量出荷していましたが、好評だったために、積極的に出荷するようになりました。現在は直売所「夢未来」以外に、ゆめタウン3店舗とマックスバリュ3店舗内のインショップにも毎日出荷しています。朝5時から収穫し、昼からパートさんたちと一緒に袋詰めします。「完熟した物を収穫するので、急がない、焦らない、丁寧に扱うよう注意しています」と永井さんは話します。トマトはお客さんからとても好評で、わざわざ畑にまでお客さんが買い求めに来たこともあるそうです。

### ● これからの抱負

「お客さんが、あなたがトマトが一番美味しか」と言ってくれるのが励みになっています」と言う長井さん。「じきる間はしようかと、夫婦で出来る限り健康に気を付けて長く続けたいです」と話してくれました。